

栃 木 県 の 農 林 水 産 業 の 概 要

特徴・取組

栃木県は、北部から西部にかけて那須連山、帝釈（たいしゃく）山地、足尾（あしお）山地の山岳地帯があり、南部には関東平野が広がり、那珂（なか）川、鬼怒（きぬ）川、渡良瀬（わたらせ）川が流れ、水資源が豊富である。

また、東京から60～160kmに位置し、東北縦貫自動車道や北関東自動車道、東北新幹線などの交通網も発達している。

全国有数のものづくり県として発展を遂げた本県の産業構造は、第2次産業、特に製造業の割合が高く35.3%と全国第7位。第2次産業就業者割合は30.7%で第9位。

豊かな農産物や豊富で良質な水に恵まれ、首都圏への食料供給基地としての役割を担う。栃木県では、食に関連する産業の振興を図ることにより、食をテーマに地域経済が成長・発展し、活力あふれる「フードバレーとちぎ」を目指す取組を推進している。

農業では、肥沃な農地と豊富な水資源、穏やかな気候に恵まれ、米麦、園芸作物、畜産など多彩な農畜産物の生産が豊富である。

林業では、豊富な森林資源を活用し、素材生産、しいたけ等の特用林産物が盛んである。

水産業では、那珂川や鬼怒川などの内水面で、ます類やあゆを中心に漁業や養殖が盛んである。

栃木県は、大消費地に近く、平坦で広大な水田が広がり、野菜カット工場等の食品企業が多く立地する特徴を持つことから、首都圏への野菜や果実の食料供給を担う「園芸大国とちぎづくり」を推進している。

いちごやトマトは高い技術力を有しており、今後、ICT等の新技術を取り入れることにより収量や品質の更なる向上を目指している。

また、新品種や新技術の導入等により、主力品目であるにらやアスパラガス、日本なしなどの生産拡大を目指している。

主な農林水産物

米

ブランド米として知名度のあるコシヒカリ・なすひかり・とちぎの星等を作付け。飼料用米の収量4.5万tは全国1位。



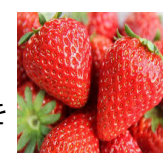
麦

二条大麦（ビール麦）を中心に小麦や六条大麦などの麦類を作付け。（二条大麦の収量全国2位）



いちご

県育成のとちおとめやスカイベリーが栽培され、収量は半世紀以上日本一で、いちご王国プロモーションを展開。（収量全国1位）



トマト

高軒高（こうのきだか）ハウスやICT等新技術を取り入れた多収量の周年栽培。（収量全国5位）



にら

いちご、トマトに次ぐ産出額を誇る重要野菜。県育成のゆめみどりを普及することにより収量日本一を目指す。（収量全国2位）



かんぴょう

県央・県南部の畑作地帯がゆがおの主産地であり、国内生産量の9割以上を占める。（収量全国1位）



そば

中山間地域における地域活性化の振興作物であり、近年は作付面積も増加傾向。（収量全国4位）



日本なし

幸水・豊水が主力品種だが、県育成のにっこりなどの晩生種の導入により、出荷期間が拡大し海外へも輸出。（収量全国3位）



乳用牛（生乳）

県北部を中心に北海道に次ぐ、5.2万頭を飼養。生乳の生産も盛ん。（飼養頭数全国2位）



肉用牛

「とちぎ和牛」としてブランド化され、シンガポール、アメリカ等に輸出。（飼養頭数全国8位）



栃木県内の各地域における農林水産物

県北地域

【農畜産物】 水稻、二条大麦、小麦、いちご、にら、なす、トマト、ねぎ、うど、日本なし、スプレーぎく、リンドウ（切り花類）、乳用牛（生乳）、肉用牛、豚

【林産物】 生しいたけ、まいたけ

【水産物】 にじます、あゆ、ヤシオマス、温泉トラフグ、ホンモロコ

【林産物】生しいたけ、まいたけ
【水産物】にじます、あゆ、ヤシオ
マス、温泉トラフグ、ホンモロコ

【水産物】にじます、あゆ、ヤシオ
マス、温泉トラフグ、ホンモロコ

県南地域

【農畜産物】水稲、二条大麦、小麦、そば、いちご、かんぴょう、なす、トマト、たまねぎ、はくさい、かき菜、アスパラガス、ぶどう、トルコギキョウ(切り花類)、肉用牛

トルコギキョウ(切り花類)、肉用牛

県央地域

【農畜産物】 水稻、二条大麦、小麦、いちご、六条大麦、落花生、にら、こんにゃくいも、さといも、なす、トマト、たまねぎ、はくさい、日本なし、そば、えごま、シクラメン（鉢もの類）、スプレーぎく、リンドウ（切り花類）、鶏卵

【林産物】 生しいたけ、まいたけ

【水産物】 にじます、あゆ

【林産物】生しいたけ、まいたけ
【水産物】にじます、あゆ

【水産物】にじます、あゆ

栃 木 県 の 農 業 (1)

- ・耕地面積は78%を占める田の9万5,500haを中心に12万2,000haであるが、荒廃農地の発生等により年々減少傾向。
- ・農業就業人口に対する65歳以上の割合は約7割を占め、高齢化が進む中で認定農業者数は7,925経営体と減少傾向。
- ・農業経営体のうち法人経営は557経営体と増加しており、担い手への農地集積率は52.7%。

耕地面積

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
耕地面積	122,000 ha	4,372,000 ha	10
田	95,500 ha	2,379,000 ha	7
畑	26,600 ha	1,993,000 ha	16
普通畑	22,000 ha	1,130,000 ha	14
樹園地	2,130 ha	268,100 ha	36
牧草地	2,480 ha	595,100 ha	12
参考) 総土地面積	640,809 ha	37,797,561 ha	20

出典:「令和2年耕地面積(7月15日現在)」、「令和3年全国都道府県市区町村別面積調(1月1日時点)」(国土交通省国土地理院)

農業経営体数、農家数及び集落営農数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
農業経営体数	32,726 経営体	1,075,705 経営体	10
法人経営体	557 経営体	30,707 経営体	25
総農家数	46,202 戸	1,747,079 戸	15
販売農家	31,993 戸	1,027,892 戸	10
参考) 世帯総数	763,097 世帯	53,448,685 世帯	19
集落営農数	237 集落営農	14,832 集落営農	26

出典:「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「平成27年国勢調査」(総務省統計局)、「集落営農実態調査(令和2年2月1日現在)」

荒廃農地面積

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
荒廃農地面積	2,270 ha	283,536 ha	37

出典:「令和元年の都道府県別の荒廃農地面積」

基幹的農業従事者数及び認定農業者数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
基幹的農業従事者数	42,914 人	1,363,038 人	10
男	25,613 人	822,144 人	9
女	17,301 人	540,894 人	10
65歳以上	29,822 人	948,621 人	8
基幹的農業従事者数に対する65歳以上割合	69.5 %	69.6 %	-
認定農業者数	7,925 経営体	233,806 経営体	8
法人数	458 法人	26,080 法人	25
参考) 総人口数	1,974,255 人	127,094,745 人	18

出典:「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「認定農業者の認定状況(令和2年3月末現在)」、「平成27年国勢調査」(総務省統計局)

担い手への農地の集積状況

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
担い手への集積面積	64,669 ha	2,508,560 ha	8
集積率	52.7 %	57.1 %	14

出典:「農地中間管理機構の実績等に関する資料(令和元年度版)」

注: 農地中間管理機構を介さないものを含む。
令和元年3月末の数値である。

令和3年3月31日時点における最新の統計等の公表データを使用
(但し「2020年農林業センサス」は令和3年4月27日公表データを使用)

栃 木 県 の 農 業 (2)

- ・農業産出額は、2,859億円で全国第9位。土地利用型農業（米、麦類、雑穀、豆類）が733億円、園芸作物（野菜、果実、花き）が928億円、畜産が1,156億円。
- ・農畜産物の生産状況は、いちごが全国第1位、生乳、乳用牛、にらが第2位、日本なしが第3位。
- ・農業者等による生産関連事業は、農産物直売所が590事業体で、年間販売金額は約300億円。

農業産出額

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
農業産出額	2,859 億円	89,387 億円	9
米	671 億円	17,484 億円	9
麦類	43 億円	543 億円	2 *
雑穀	10 億円	110 億円	3
豆類	9 億円	773 億円	17
いも類	15 億円	2,007 億円	15
野菜	784 億円	21,515 億円	9
果実	76 億円	8,399 億円	28
花き	68 億円	3,264 億円	14
工芸農作物	5 億円	1,699 億円	29
その他作物	13 億円	718 億円	14 *
畜産	1,156 億円	32,344 億円	7
肉用牛	228 億円	7,482 億円	9
乳用牛	437 億円	9,353 億円	2
生乳	369 億円	7,629 億円	2
豚	258 億円	6,122 億円	8
鶏	231 億円	8,647 億円	12
鶏卵	210 億円	4,595 億円	6
ブロイラー	x 億円	3,510 億円	-
その他畜産物	2 億円	740 億円	24
加工農産物	9 億円	530 億円	12

出典：「令和元年生産農業所得統計」

注：1 「全国」の値は、都道府県別に推計した農業産出額を合計した値であり、全国推計した農業総産出額とは一致しない。

2 「*」印がある区分の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

農畜産物の生産状況

区 分		年次	栃 木 県	全 国	全国順位
いちご	収穫量	元	25,400 t	165,200 t	1
生乳	生産量	元	330,598 t	7,313,530 t	2
乳用牛	飼養頭数	R2	52,100 頭	1,352,000 頭	2
にら	収穫量	元	10,900 t	58,300 t	2
日本なし	収穫量	元	18,100 t	209,700 t	3
トマト	収穫量	元	34,800 t	720,600 t	5
豚	飼養頭数	H31	406,000 頭	9,156,000 頭	7
肉用牛	飼養頭数	R2	79,800 頭	2,555,000 頭	8
水稻	収穫量	R2	318,500 t	7,763,000 t	8
たまねぎ	収穫量	元	12,000 t	1,334,000 t	8

出典：「作物統計」、「畜産統計」、「牛乳乳製品統計」、「野菜生産出荷統計」、「果樹生産出荷統計」

農業生産関連事業の年間販売金額及び事業体数

区 分		栃 木 県	全 国	全国順位
農産加工	総額	22,960 百万円	946,841 百万円	16
	事業体数	700 事業体	32,400 事業体	16
農産物直売所	総額	29,958 百万円	1,053,366 百万円	11
	事業体数	590 事業体	23,650 事業体	16
観光農園	総額	1,177 百万円	35,943 百万円	11
	経営体数	150 経営体	5,290 経営体	13

出典：「令和元年度6次産業化総合調査」

令和3年3月31日時点における最新の統計等の公表データを使用

栃 木 県 の 林 業

- ・林野面積は約34万haで県土の約53%を占め、国有林が約12万ha、民有林が約22万haで、林業産出額のうち木材生産は62億9,000万円。
- ・林産物の生産状況は、まいたけ、生しいたけ、乾しいたけが中心で、林業産出額のうち栽培きのこ類生産が39億3,000万円。
- ・製材工場は111工場。

林野面積

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
林野面積	339,113 ha	24,770,166 ha	28
国有林	118,663 ha	7,153,338 ha	15
民有林	220,450 ha	17,616,828 ha	34
人工林面積	155,946 ha	10,203,842 ha	28

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「森林資源の現況」(平成29年3月31日現在)

林業経営体数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
林業経営体数	1,015 経営体	34,001 経営体	9
法人経営体	64 経営体	4,093 経営体	24

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

林業産出額

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
林業産出額	102.6 億円	4,549.2 億円	13
木材生産	62.9 億円	2,294.0 億円	10
栽培きのこ類生産	39.3 億円	2,170.2 億円	15

出典：「令和元年林業産出額」

注：「全国」の値は、都道府県別に推計した林業産出額を合計した値であり、全国推計した林業産出額とは一致しない。

林産物の生産状況

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
素材生産量	581 千m ³	21,883 千m ³	11
針葉樹	550 千m ³	19,876 千m ³	11
ひのき	139 千m ³	2,966 千m ³	8
すぎ	403 千m ³	12,736 千m ³	10
広葉樹	31 千m ³	2,007 千m ³	15
まいたけ	生産量 341 t	51,108 t	8 *
生しいたけ	生産量 3,157 t	71,071 t	6
木炭	生産量 138 t	8,377 t	9 *
ひらたけ	生産量 29 t	3,862 t	11 *
乾しいたけ	生産量 33 t	2,414 t	9

出典：「令和元年木材統計」、「令和元年特用林産基礎資料」

注：「*」印がある区分の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

製材工場数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
工場数	111 工場	4,382 工場	14
製材用素材の入荷があった工場数	111 工場	4,340 工場	13
国産材のみ	97 工場	3,358 工場	12
国産材と輸入材	8 工場	771 工場	33

出典：「令和元年木材統計」

令和3年3月31日時点における最新の統計等の公表データを使用
(但し「2020年農林業センサス」は令和3年4月27日公表データを使用)

栃 木 県 の 漁 業

- ・水産物の生産状況は、内水面漁業のあゆが全国第3位、内水面養殖業のにじますが第4位。
このほか、生産量は少ないが、ヤシオマスや温泉トラフグ、ホンモロコが県内の特産品となっている。

漁業経営体数

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
内水面漁業経営体数	79 経営体	4,772 経営体	16

出典：「2018年漁業センサス（平成30年11月1日現在）」

水産物の生産状況

区 分	栃 木 県	全 国	全国順位
内水面漁業・養殖業生産量	1,014 t	52,875 t	10 *
内水面漁業漁獲量	275 t	21,767 t	9 *
あゆ	270 t	2,053 t	3 *
内水面養殖業収獲量	739 t	31,108 t	10 *
にじます	284 t	4,543 t	4 *

出典：「令和元年漁業・養殖業生産統計」

注：1 「*」印がある区分の順位は、秘密の保護上統計数値を公表していない都道府県を除いた順位である。

2 東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所事故の影響を受けた区域において、同事故の影響により出荷制限又出荷自粛の措置がとられたものについては、生産量に含めていない。

栃木県の農林水産業の話題等

栃木県農業大学校に日本初の「いちご学科」の創設

半世紀以上に渡り、いちご生産量日本一を誇る栃木県では、令和3年度より栃木県農業大学校に「いちご学科」を創設し、いちご栽培に関する技術と高い経営能力を育むことにより、今後のいちご農家を担う人材を育成。

同学科は2年制で、1年目は農業の基礎的知識やいちごの栽培技術の習得、2年目は現場での実践的な技術と経営管理能力の習得を行うことで、いちご経営者の育成を目指している。

いちご生産量 半世紀以上日本一

栃木県内のいちご生産量が半世紀以上に渡り日本一となったことを記念する「いちご記念碑」が、県庁昭和館の前にお披露目された。いちごをモチーフにした「いちご記念碑」は高さ2メートルで、空に向かって長く伸びたヘタは日本一の生産量を象徴している。

栃木県におけるいちごの品種開発は、1969年から始まり、1985年「女峰（によほう）」が育成された。その後も「とちおとめ」、「スカイベリー」などの他、品種登録出願中の白いちご「ミルキーベリー」や多収で良食味、輸送性に優れた「とちあいか」を開発している。

とちぎ食肉センターの新設（県内唯一の牛肉輸出対応施設を整備）

国際競争力の強化や食肉流通の合理化を図るため、県内に3か所あった食肉センターを再編統合し、新たな食肉加工施設「とちぎ食肉センター」を2020年4月に開場した。

同施設は、HACCPを導入した高い衛生水準を満たしており、県内唯一となる牛肉の輸出対応施設として新たに整備したもの。また、精肉加工や小売パッケージ化などにも取り組むことにより、県産食肉の消費拡大や牛肉の更なる輸出拡大に向け、食肉流通の拠点施設として十分に機能を果たすことが期待されている。



【栃木県農業大学校HPより】



【いちご記念碑】



スカイベリー



とちあいか



とちおとめ



ミルキーベリー



【とちぎ食肉センター】